

【潤色】 銀河鉄道の夜

搭乗人物

ジヨバンニ 銀河鉄道からの生還者

カムパネルラ ジヨバンニの友達

車掌 銀河鉄道の車掌。（本公演ではザネリと兼役）

赤ひげ 妻と子どもを残して死んだ。家族と生きるためにやっていた仕事の癖が死後も抜けない。

女の子 タイタニック号で死んだ。キリスト教徒。

青年 タイタニック号で死んだ。キリスト教徒だが神はいないと絶望を感じはじめた。

1. 現実

十分前、車掌、観客席で切符を切り始める

車掌 本日はご乗車いただき、誠にありがとうございます。次は銀河ステーション、銀河ステーション。お出口は目の前です。お客様にお願いいたします。車内では携帯電話、時計のアラーム等音の成る機器の電源をお切りください。ご乗車中の撮影や録音は固くお断り申し上げます。

す。また喫煙や飲食は他のお客様のご迷惑となりますのでおやめください。まもなく銀河ステーションに到着いたします。お出口は目の前です。ケンタウル祭へ向かいのお客様はお乗り換えです。

電車の走行音

ジョバンニ　母さん、今帰ったよ。具合はどう？

ジョバンニ、窓を開ける。

ジョバンニ　今日は星が綺麗だよ。母さん、角砂糖を買ってきたよ。牛乳に入れようとおもって。姉さんは帰ったの。ああ、この辺が綺麗になってるねえ。このトマトは姉さんが持ってきたのかな。おいしそうだねえ。お

母さん、牛乳は……

ジョバンニ　母さん、牛乳は来てないかい

ジョバンニ　どうだったかな、ちゃんと見ておけばよかったね。外を見ってくるよ

ジョバンニ、いったん外に出る。新聞と手紙を持って帰ってくる

ジョバンニ　きつと忘れちゃったんだね。僕、牛乳屋さんに取ってくるよ

ジョバンニ、新聞を母に手渡す

ジョバンニ、首を振る

ジヨバンニ　　ぼく、父さんはきつと間もなく帰ってくると思うよ

ジヨバンニ　　その新聞に、今年は漁が大へんよかったって書いてあったよ。だから
きつと間もなく帰ってくるよ

ジヨバンニ　　父さんは帰ってくるよ、帰ってくるんだ。

風の音

ジヨバンニ　　もうそろそろ閉めようか。母さんももっと厚着しないと。ああ、ボタ
ンが取れてるんだね。裁縫道具はどこだったかな

ジヨバンニ　　父さんはきつと、きつと漁に出ているよ。父さんが監獄に入るような
そんな悪いことをしたはずがないんだから。

ジヨバンニ　　この前、お父さんが持ってきて学校へ寄贈したトナカイの角、今だっ
て標本室にあるんだ。密漁なら、きつと今頃警察が持っていたはず
さ

ジヨバンニ　　みんな、僕のことを密猟者の息子だって言うんだ。

ジヨバンニ　　うん。みんな悪口ばかりだ。

お母さん、頭を抱えて溜息をつく

ジヨバンニ　　お母さん、ぼく、牛乳を取ってくるよ。

ジヨバンニ うん。母さんも温かくしておいてね。きっと一時間半で帰ってくるよ。

ジヨバンニ、外へ出ていく

ザネリ よう！ ジヨバンニじゃないか！

ジヨバンニ ザネリ……烏瓜ながしに行くの？ 綺麗な星だもんね。お祭りに行くのかい。

ザネリ もちろんさ！ おれが一番大きな烏瓜を流してやるつもりなんだ！
お前は行かないのか？

ジヨバンニ えっと、これから牛乳を貰いに行くんだ。届かなかったから

ザネリ へえー、金払わなかったんじゃない？ ビンボーなんだろう？

ジヨバンニ ビンボーじゃないよ。毎日ごはんたべられてるもん

ザネリ ふうん。でも祭りには行かないんだろ。

ジヨバンニ 行くよ。

ザネリ でも烏瓜持っていないじゃないか。川には行かないんだろ。学校のやつら、みーんな行くんだぜ。お前だけ行かないんだろ。

ジヨバンニ 行くよ！ 僕もお祭りに行く！ だからビンボーなんかじゃない。

ザネリ じゃあ、ビンボーじゃないジヨバンニは誰とお祭りに行くんだ？

ジヨバンニ えっと……あ、カムパネルラ！

カムパネルラ、登場する

ザネリ ざんねん！ カムパネルラは俺達とお祭りに行くんだよ！（カムパネ

ルラと肩を組む）

ジヨバンニ ぼくも一緒に行ったって良いじゃないか

ザネリ だめだよ。だれがお前なんかと行くか。

ジヨバンニ どうしてダメなの

ザネリ じゃあ、聴くが。お父さんは帰ってきたのかい、ジヨバンニ。

ジヨバンニ 何だよ。父さんならまだ帰ってこないよ。

ザネリ そらそうだよなあ！ だって捕まっちゃったんだもん！

ジヨバンニ そんなことない。父さんは必ず帰ってくるよ。

ザネリ どうせ帰ってこないだろう！ だって大ウソつき、密猟者の息子じゃな

いか！ いつか見せてやるって言ってたらこの上着だって、まだ見
せてもらってないぞ。いつ見せてくれるんだよ、らっこの上着！

カムパネルラ、悔しそうにザネリを振りほどいて立ち去る

ザネリ あ、おい、待てよ！ カムパネルラ！ なんて怒ってるんだよ！ ほ

んとの事じゃないか！ まてつたら！

ジヨバンニ涙を拭いて、空を見上げる。

川の音

2. 銀河鉄道（白鳥の停車場）

電車の走行音

ナレーション 銀河ステーション、銀河ステーション

ジヨバンニの頭上の星が明るくなる

ジヨバンニ、列車の席に座っている。外は星空。見慣れない光景

ジヨバンニ ……ここはどこだろう。夢の中かな。すつごく綺麗な場所

カムパネルラ、登場。ジヨバンニに話しかける。

カムパネルラ ジヨバンニ

ジヨバンニ わあ、カムパネルラ！ どうしてここにいるの？

カムパネルラ ジヨバンニの後を追いかけたんだよ

ジヨバンニ　　そうだったの？　あれ、でもザネリは？

カムパネルラ　みんなは随分走ったけれども乗れなかったよ。ザネリもね、ずいぶん走ったけれども追いつかなかったんだ。

カムパネルラ、ジヨバンニの隣に座る

カムパネルラ　ザネリはもう帰ったよ。お父さんが迎えに来たんだ。

ジヨバンニ　父さんが……ザネリのやつ、悔しがってるだろうなあ。だってこんな立派な汽車だもの。きつと乗りたがったろうに。カムパネルラの家に合った汽車の玩具にそっくり。

カムパネルラ　本当だね。でもこの汽車は線路じゃなくて水の上を走っているよ。ああ！　しまったな。ぼく、水筒を忘れてきちゃった。スケッチブックも置いてきちゃったな

ジヨバンニ　あはは。なんだか僕も、何か忘れてきた気がするよ。

カムパネルラ　ほんとう？　でも構わないや。きつと大丈夫だから。

ジヨバンニ　カムパネルラ、みてみて！　もうすぐ地面からはなれてくよ！　1，2，3！　わあ！　すごい揺れたねえ！

カムパネルラ　ほら、あの青い雲を抜けたら、もう空の上だ！　もうすぐ白鳥の停車

場なんだ。ぼく、白鳥を見るのが好き。天の川の向こうに飛んでいたって、きつと見えるよ。

カムパネルラ、黒曜石の地図（星座早見表）を開く

ジヨバンニ ベテルギウス、シリウス、プロキオン！ ……あれはカペラだ！ あ
 っちはなんの星だろう？

カムパネルラ えっとね……

ジヨバンニ カムパネルラ、この地図、どこで買ったの？ 黒曜石で出来てるねえ

カムパネルラ 銀河ステーションで貰ったんだよ。

ジヨバンニ どこに置いてあったんだろう。全然気づかなかった。（地図を見ながら）ねえ、今僕たちはどこにいるんだろう。

星明かりが強くなる

ジヨバンニ ぼくら、今は天の原にいるんだ。あの河原は月夜かなあ

カムパネルラ 月夜じゃないよ。氷の粒さ。銀河だから光るんだよ。

ジヨバンニ この汽車、石炭を焚いてないね

カムパネルラ アルコールか電気で走らせているんだね。

ジヨバンニ　　すごいなあ、ぼく、汽車に乗ったのなんか初めてだよ！

カムパネルラ　　ぼくも空に来るなんて初めてだよ！

ジヨバンニ　　りんどうの花が咲いているよ。すっかり秋だね。窓から飛び降りてさ

　　っと一輪取ってこようか。

カムパネルラ　　ダメだよ。ほら、もうあんなに遠くに行っちゃったよ。

電車の走行音

赤ひげ、登場。

赤ひげ　　失礼、ここへかけても？

ジヨバンニ　　ええ、どうぞ。

カムパネルラ　　凄い荷物ですね。

赤ひげ　　ああ、大荷物だね。ちよいと失礼しますよ。

赤ひげ、荷物を網棚にのせ、ジヨバンニとカムパネルラに向かい合って座る

赤ひげ　　あなた方は……どちらへいらっしゃるんです？

ジヨバンニ　　どこまでもいくんです。

赤ひげ　　そりゃいい。この汽車はじっさい、どこまでも行くからなあ

カムパネルラ あなたはどこへ行くんです

赤ひげ　すぐそこで降りますよ。鳥を捕まえに行くんでね。

カムパネルラ　へえ、何鳥ですか？

赤ひげ　ツルやガン、サギや白鳥です

カムパネルラ　白鳥！

赤ひげ　いますとも、いますとも。さっきから鳴いてまさあ。聞かなかったのですか。今でも聞こえるじゃありませんか。そら、耳を澄まして聞いてごらんなさい。

水の音が流れる

ジョバンニ　どうして鳥を捕るんですか。標本にするとか？

赤ひげ　標本じゃありません。食べるんですよ。皆食べるでしょう。

ジョバンニ、カムパネルラ、顔を見合わせる

カムパネルラ　白鳥を食べるんですか。ツルやサギも？　どうやって。

赤ひげ　鳥というものは、みんな天の川の砂が固まって、ぼおっとできるもんですから。そして川へ帰っていくんです。だから川原で待っていて、鳥がみんな、脚をこういう風にして下りてくるところを、そいつが地べ

たへつくつかないうちに、ぴたっと押えちまうんです。するともう鳥はかたまって死んじまいます。あとはもう、わかり切ってます。あ。

押し葉にするだけです。おかしいも不審ありませんや。さあ、見て

ごらん（赤ひげ網棚から荷物を取り、鳥を見せる）

カムパネルラ
目を瞑ってるね

ジヨバンニ
美味しいんですか

赤ひげ
毎日注文がありますよ。こっちはすぐ食べられます。どうです、少し

食べてみますか。

ジヨバンニ、カムパネルラ、鳥を食べる。チョコレートっぽい。

カムパネルラ
お菓子みたいだ。不思議な味、でも美味しいねえ。

赤ひげ
今年の渡り鳥は景気がいい。素敵なものだ。いい味がしているんで

す。さあ、もつとおあがりなさいな

電車の走行音

ナレーション
まもなく白鳥の停車場、白鳥の停車場

赤ひげ
さあて、一仕事だ（準備を始める）

ジヨバンニ
白鳥、楽しみだねえ

カムパネルラ 十一時きっかりには着くんだよ

時計の音

ジヨバンニ カムパネルラ、ぼくも降りてみようか

カムパネルラ そうだね。降りてみよう

電車の停車音

ジヨバンニ、カムパネルラ、席から立ち上がり電車を降る。

ジヨバンニ あれ、おじさんはどこに行ったんだろう

カムパネルラ ジヨバンニ！ この砂、水晶だ、中で小さな火が燃えているよ

ジヨバンニ あっちへ行ってみようよ。

カムパネルラ ああ、変なものがあるよ

ジヨバンニ くるみの実？ 落ちてるんじゃないや、流れてくる

水の音

カムパネルラ 大きいね。このくるみも普通の倍はある。しかも少しも傷んでない。

ああ、みて、あそこに誰がいるよ！

赤ひげ あなた方、おりてきたんですか。丁度いい、手伝っていただけますか

な。

ジョバンニ 何かを掘るんですか

赤ひげ ここいらを掘るんです。ああ、そのかばんに道具がありますから、使ってください……あ、そんなに乱暴にはしなさんな。ゆっくり、やさしく撫でてやるんです

カムパネルラ 標本にするんですか

赤ひげ いんや。これは燃料になるのさ

ジョバンニ 燃料？

赤ひげ ここから鳥たちが生まれる燃料になるのさ。わたしら捕るだけじゃ、いつかはなくなっちゃう。だから、こうしてもう一度埋めるんださ。

カムパネルラ うわあ、くるみの下から貝殻も出てきた！ きつと今、川が流れているところに塩水が寄せたり引いたりしていたんだね。

赤ひげ この辺りの地層を調べてる大学士が、あっちの方にいたはずだな

ジョバンニ そんなことを調べて何をするんだろう。

赤ひげ 証明するのに要るんだといったたなあ

ジヨバンニ 証明？

赤ひげ 難しいことは分らん。ただ、誰の世界にもおなじものが映っていると証明するのに要るんだそうだ。

ジヨバンニ うーんなんだか難しいや。でも、ぼくはここが好きだよ

カムパネルラ ぼくもここが好き。同じだね。

ジヨバンニ うん！ ね、あっちももつと掘ってみようよ

赤ひげ あんまり遠くにいきなさんな

カムパネルラ、ジヨバンニ、くるみを拾う

ジヨバンニ わぁ！ 肋骨が出てきたぞ！

列車の汽笛音

赤ひげ さあ、もう時間だ。乗り遅れちまう、急げ急げ。

カムパネルラ、ジヨバンニ、列車の席に座る

カムパネルラ わあ、間に合った。よかったよかった。

ジヨバンニ ね、カムパネルラ。さっき埋めたくるみが青く光ってるよ

カムパネルラ 本当だ、花畑みたいだね

赤ひげ

あなた方、不思議なことを言いなさるなあ。あれは星畑さ。この銀河のどこでも見られるもんだ

ジヨバンニ

それでも、すごくきれい。ぼく、ずっと覚えていたいなあ

赤ひげ

あなた方、とても若いようですな。一体、どちらからいらっしゃったんです。

ジヨバンニ

……えつとケンタウル祭から。

カムパネルラ

川に瓜を流していたんです。もう一息で、遠くまで流れていくところだったんですけど。

赤ひげ

そうか……そういうこともあるんでしょうな

カムパネルラ

あなたこそ、どちらからいらっしゃったんです？

赤ひげ

俺はアルデバランの湖畔のほとりに住んでました。そこで鳥を捕っていたんですあ。毎日、今日食う飯代を稼ぐ日々でしたなあ。こう、網を船の上から投げるんです。今とはちつとばかり捕り方が違いますかね。あっちにいても、こっちにきても、俺は鳥を捕って暮らしているんです。

ジヨバンニ

一人で住んでいたんですか。

赤ひげ

……いんや。向こうでは家内と、子どもが、ちょうどあなた方くらいのと暮らしていました。まあ、置いてきちまったんです。そういうこともあるんじゃないなあ。

列車の汽笛が鳴る

赤ひげ

さあ、もうここらは白鳥区のおしまいです。ごらんなさい。あれが名高いアルビレオの観測所です。あれは、水の速さをはかる器械で、あそこを水が溜まって、サファイアやトパースが星を送り出すのです。

水の音

車掌

失礼いたします。切符を拝見いたします。

ジョバンニ

（小声）切符をどうするの？

カムパネルラ

車掌さんに見せるんだよ、銀河ステーションで買ったやつ

ジョバンニ

ぼく、切符買ってないよ、どうしよう

赤ひげ、カムパネルラ、切符を出す。

車掌

おや、今日は長旅ですね、今年の鳥はいかがですか

赤ひげ

ええ、景気がいいもんです。俺がここに来てから一番でしたよ。だから今年でもう引退しようと思ひましてね

車掌

おや、そうなのですね……あなたが乗られないとなると職員一同寂しいですね

赤ひげ

よせよせ、いつも俺みたいなのを乗せてるだろうに

車掌

ええ……

赤ひげ

そうか、長らく世話になったなあ

車掌

こちらこそ、本日まで格別のご愛顧いただきありがとうございます
た。あなたの最期の旅が良いものになるよう、お祈り申し上げます

車掌、切符に切り込みを入れる。

車掌

おや、あなたのは？

ジョバンニ、服のポケットを探る。上着に緑色のハガキが入っている。

やっちまえと思いながら差し出す。車掌は驚いた顔をする。

車掌

おやおや、まあまあ、これは三次空間の方からお持ちになったのですか。

ジョバンニ

何だかわかりません

車掌

はっはっは。これはこれは珍しい。よろしゅうございます。もうじきワシの停車場。サウザンクロスへ着きますのは、次の第三時ころにな

ります。よい旅を。

車掌が切符を返却する。赤ひげとカムパネルラは覗き込む

赤ひげ おや、こいつは大したもんですぜ。こいつはもう、ほんとうの天上へ

さえ行ける切符だ。天上どころじゃない、どこでも勝手に歩ける通行券です

カムパネルラ いつから持ってたの、ジョバンニ。

ジョバンニ うーん、どうしてこれを持ってるのか、わかんない。

赤ひげ まあ、とにかく、こいつをお持ちになれば、こんな不完全な幻想第四次の銀河鉄道なんか、どこまででも行ける筈でさあ、あなた大したもんですね

ジョバンニ 貴方は、次の駅までですか

赤ひげ ええ、ええ。もう随分と長いこと、この辺りで鳥を捕って、暮らしてきましたがね、あまりにも長く待ったもんですから。そろそろ離れようかと思ひまして

カムパネルラ 一人で行くのは寂しくないですか。

赤ひげ さあ、寂しいと忘れるほど、待ちましたからね。来るのが遅ければ遅

いほうがいいとわかっていたがね……さ、そろそろ（準備を始める）

ナレーション 次はワシの停車場、ワシの停車場

赤ひげ もしも、また会うことがありましたら。その時まで達者でいましょう

電車の走行音

カムパネルラ、ジョバンニ、外に向かって手を振る。

カムパネルラ、床に一枚のボタンを見つける。ジョバンニに手渡す。

カムパネルラ ねえ、何か落ちているよ。きみの物じゃないかい。

ジョバンニ ……ボタンかな。けれど僕のものかわからないよ。

カムパネルラ これ、あの人の物かな、僕には必要のないものだから。また今度車掌

さんが来たときに預けようか。

ジョバンニ そうだね、そうしよう（ポケットの中に仕舞う）

星明かりが暗くなる

5. 記憶の中（学校）

カムパネルラ、前の先に座る

先生 ではみなさんは、このぼんやりと白いものがほんとうは何かわかりま

すか

カムパネルラ、手を上げる。ジョバンニ、手を挙げるが、すぐに下ろす

先生
ジョバンニさん。

ジョバンニ、勢いよく立ち上がる

先生
大きな望遠鏡で銀河をよく調べるとあの白い部分は为什么呢

ジョバンニ、答えない（もじもじしている）

クラスの笑い声

先生
（咳払い）ではカムパネルラさん

カムパネルラ、立ち上がるが、答えない。

先生
……この白い銀河を望遠鏡で見ますと、たくさんの小さな星が集まっているとわかるのです。ジョバンニさんそうですね。

ジョバンニ、頷く。頷いたまま下を見る。

先生
ですから天の川という名前は集まった星々を川底の砂粒に例えている言葉なのです。天の川の水は光を伝える真空というものです。真空の中に地球や太陽や、月や、数々の星々が浮かんでいるのです。星には太陽なんかのように自分自身で光っているものがあります。自分で光

っていない星は、光っている星の光を受けて輝きます。そうして星が集まって白く見えるというわけなのです

ジヨバンニ

そうだ僕は知っていたんだ。勿論カムパネルラも知っていた。

それはいつかカムパネルラのうちで、カムパネルラといっしょに読んだ雑誌のなかにあった。カムパネルラは、その雑誌を読むと、すぐお父さんの書斎からおおきな本をもってきて、銀河のページをひろげた。真っ黒に塗りつぶされたページいっぱいには白い点々のある美しい写真だった。そうだ。僕はあれが星の集まりだと知っていた。けどもどうして、僕にはそれが、わかるようで、わからない気がしたんだ。

ジヨバンニ、カムパネルラ、着席する

先生

ああ、もう終わりの時間ですね。この続きはまた次回。今日は銀河のお祭、ケンタウル祭ですね。みなさん、そらを見た時は今日の話を思い出してください。ではここまでです。礼。

クラスの笑い声が大きくなり、足音と共に教室から出ていく

ジヨバンニはクラスメイトを羨ましそうに見ている。

6. 銀河鉄道（ほんとうのさいわい）

ジヨバンニ なんだかリンゴの匂いがする。お腹が減ってきたからかなあ。

カムパネルラ ほんとうにリンゴの匂いだよ。野ばらの匂いもするね。

女の子 あら、ここはどこかしら。

青年 僕たちは空へ来たんだ……ここは汽車の中でしょうか。

ジヨバンニ （小声で）ねえ、カムパネルラ。あの人たちなんだか濡れているね。

カムパネルラ うん、そこのお二人さん、よろしければこちらに座りませんか。足元から熱気が出ていますから、暖まりますよ。

女の子が青年をジヨバンニとカムパネルラの前の席に座らせる。

女の子 ありがとうございます！ ね、先生、どうぞ座ってください。

カムパネルラ ぼくはタオルを貰いに行ってくださいようか。

青年 いいえ、きつともうじき暖かくなりますから

女の子 あら！ それなら私も行くわ。ね、一緒に行きましょう（腕を引く）

カムパネルラ あ、ジヨバンニ……

カムパネルラ、女の子、退場する

青年 すみません。ここにきてからどうやらはしゃいでいるようですね。申

し訳ありません。ここはとても綺麗な場所ですね。この汽車は、宙を走っているんですか。今はどのあたりを走っているんでしょう

ジョバンニ

ここに地図がありますよ。今はこの辺りですね

青年

ああ、本当ですね。もう少しでサウザンクロス、ですか。それでは私たちは天上へ向かっているのですね。そうですか……。

ジョバンニ

どうかされましたか？ ああ、少し寒いですか？ 随分濡れていますからね。なにか拭くものあったかな（鞆からハンカチを差し出す）

青年

ありがとうございます。実は私たちが乗っていた船が冰山にぶつかって沈んでしまったようで。あの、あなた方も船に乗っていたんでしょうか。

ジョバンニ

カムパネルラは船に乗っていたけれど、僕は乗ってません。

青年

そうですか。では、貴方はどうしてここにいらっしゃるのですか

ジョバンニ

わからないんです。ぼくも気がいたらここにいたんです。最後に見たのは、友人が船から川へ落ちるところでした。

青年

川、ということは違う船に乗っていたんですね。私達は海の上でしたから。私達は船と一緒に沈んだんだと思います。救命ボートが足りな

かったのです。小さな子どもと水夫たちは船から離れていました。私達は一生懸命に甲板の格子につかまっていた。残った人たちで励まし合いながら、歌を歌っていたんです。

女の子、星めぐりの歌を歌いながら登場する。

カムパネルラ 歌、上手だね

女の子 お母さまに教わったのよ。とっても歌が上手だったの。よく寝る前に歌ってくださったのよ。

カムパネルラ ぼくの母さんはきらきら星だったな。キラキラ光るゝってやつ。

女の子 それは先生が歌ってくださるわ。先生は星めぐりの歌を知らないのよ

カムパネルラ 君のおかあさんは？

女の子 もういないの。随分前に、先に逝ってしまわれたのよ

カムパネルラ ああ、じゃあ、僕と一緒にだ。

女の子 ねえ、私は、お母さまのそこへ行くのね。

カムパネルラ 怖い？

女の子 さっきまでね。私、溺れたのよ。大きな黒い波に飲み込まれるまで、怖かったの。でも先生が、ずっと手を握ってくださっていたわ。だから

らちつとも怖くなかった。

カムパネルラ
ぼくもね、ここに来るまでジョバンニがずっと手を握ってくれたんだ
よ。

女の子
ジョバンニって隣にいた子？　ちよつと……いえ、その、すごく汚れて
いなかった？　なんだかびっくりしちゃったわ

カムパネルラ
服が汚れていても、ジョバンニは僕の一番の友達なんだ。

女の子
そう……ねえ、私と友達になりましたよ。先生しかなかったの。

カムパネルラ
うん、いいよ。でも、ジョバンニとも仲良くしてね

女の子
……うん。

カムパネルラ
ありがとう。僕ね、友達が嬉しそうだと、僕も嬉しいんだ

女の子
あなたって優しいのね。

カムパネルラ
そうかな。でも僕以上に、ジョバンニは優しいんだよ

女の子
そう。あなた達ってどこで仲良くなったの？

カムパネルラ
学校だよ。でもジョバンニは彼の父さんと一緒に僕の家遊びに来た
こともあったなあ。一緒に図鑑見たり、チェスをやったり。ああ、で
もチェスはジョバンニがいつも負けちゃうんだ

女の子 あら、あの人はチェスが弱いよね

カムパネルラ ううん、ジヨバンニはすごく優しくてお人好しなんだ。

女の子 羨ましいな

カムパネルラ え？

女の子 私は学校に行けなかったのよ。だから先生が、勉強を教えてください。でも厳しいのよ。立派なレディになるためって、いっぱい課題を出すんだもの

カムパネルラ えーすごく優しそうだけどなあ

女の子 わたしいっぱい頑張ったんだから。でも滅多に褒めてくれないの。もう、思い出したら悔しい！

カムパネルラ じゃあ、先生のことは嫌いなのか？

女の子 いいえ、厳しいけど、褒めてくれないけど、すごく優しい声で歌ってくれるのよ。

先生、きらきら星を歌う。

女の子、カムパネルラ退場

ジヨバンニ いいなあ、僕が眠る時には母さんは寝ているから。歌ってもらったこ

とないや

先生
お母さまは？

ジョバンニ
もうずっと、動けないんです。父さんが帰ってこなくなって、一層、
具合が良くないみたい。僕がもっと、働けたら良かったんだけど。

青年
そうですか。私も、あの子の家庭教師として働いているんです。同じ
ですね。

ジョバンニ
なんだか不思議。僕とあなたが同じだなんて。ほんとのことを言うと
ね、カムパネルラと友達なんて、少し疑ってしまうんですよ

青年
カムパネルラ、というのはさっきの彼でしょうか？ どうして？

ジョバンニ
だって、僕の手は働いてインクで真っ黒で、カムパネルラは綺麗な服
を着ているでしょう。なんだか汚してしまいそうで申し訳ないんだ。
でもカムパネルラは優しいから、僕の手を離さないでいてくれるん
です。

青年
友人に姿も形も関係ありませんよ。大切なのは、相手を想う気持ちで
す。

ジョバンニ
それならカムパネルラは友達でいてくれるかなあ。

カムパネルラ、女の子、タオルを持って帰ってくる。

女の子　先生、お待たせしました。歌っていたらいい気持ちになってしまった

の。すっかり時間が経っちゃったわ。まだ目的地へは着かないかしら。

青年　ええ、サウザンクロスまではもうしばらくかかるそうですね。きっと

お母さまも楽しみにお待ちのはずです。貴方が寒くないかとお腹を空
かしてないかと心配してらっしゃることでしょう。

女の子　ええ、そうね。お母さまはきっと待っていらっしゃるわ。ようやく声

を聞けるのね。

カムパネルラ　そうだ、先ほど車掌さんに頂いたんです。一緒に頂きませんか。こう

いうリンゴは初めてでしょう。

青年　立派ですね。ここらではこんなリンゴができるんですか。

青年、一口食べる。女の子にリンゴをあげる。

女の子、リンゴを食べる。

女の子　とっても美味しい！　お母さまとも食べたいわ。お母さまはリンゴが

好きなの。きっとこっちはこんな風にかじりついているかしら。

すこしはしたないかしらね……あら、あれはカラスだわ！

ジョバンニ

カラスじゃないよ。みんなカササギだ。

青年

ええ、あれはカササギですね。頭の後ろに毛がぴんと伸びています。

女の子

ほんとうだわ！ ああ、あっちも光っているわ！

カムパネルラ

こっちにはクジャクがいるよ

女の子

素敵！ 沢山いるわ。あちらへ飛んでいくのね！

カムパネルラ

宇宙の塵を食べて、綺麗にしているんだよ。

女の子

まあ、きれいなこと。あら、あの人は鳥へ何を教えているんでしょう

カムパネルラ

わたり鳥へ信号してるんだ。きつとどこからかのろしがあがるよ。

女の子

追いかけてくるのかしら。

ジョバンニ

汽車を追ってるんじゃないよ。狩りをしているんだ。

カムパネルラ

踊っているんじゃないかな。

青年

（黒曜石の地図を確認する）もうこの辺から下りです。一ぺんにあの

水面までおりて行くんです。ほら、だんだん早くなったでしょう

電車の走行音が大きくなっていく。

赤い星が強く光り始める。

ジョバンニ　あれは何の火だろう。真っ赤だね。

女の子　あれはきっとサソリの火よ。

ジョバンニ　サソリの火ってなに？

女の子　サソリがやけて死んだのよ。その火がいまでも燃えてるって、お父さまから聞いたわ。

ジョバンニ　サソリって、虫だろう。

女の子　ええ、サソリは虫よ。だけどいい虫よ。

ジョバンニ　サソリはいい虫じゃないよ。僕、博物館でアルコールにつけてあるのを見た。尾にこんなかぎがあってそれでさされると死ぬって先生が云ったよ。

女の子　そうよ。だけどいい虫だわ、お父さまはこう云ったのよ。

青年　バルドラの野原に一ぴきの蝸がいて小さな虫なんかを殺してたべて生きていました。するとある日イタチに見つかって食べられそうになりました。サソリは一生けん命にげてにげて。にげたけどとうとうイタチに押えられそうになりました。そのときいきなり前に井戸が現れた

のです。サソリは真つ逆さまにその中に落ちてしまいました。もうどうしてもあがれないでさそりは溺れていきます。そのときさそりはこう云ってお祈りしました。

カムパネルラ

ああ、わたしはいままでいくつのものの命をとったかわからない、そしてその私がこんどいたちにとられようとしたときはあんなに一生けん命にげた。それでもとうとうこんなになってしまった。ああなんにもあてにならない。どうしてわたしはわたしのからだをだまってイタチにくれてやらなかったろう。そしたらイタチも一日生きのびたろうに。どうか神さま。私の心をごらん下さい。こんなにむなく命をすてずどうかこの次にはまことのみんなのさいわいのために私のからだをおつかい下さい。

青年

そうしていつかサソリのからだはまっ赤なうつくしい火になって燃えてよるのやみを照らしました。

女の子

いまでも燃えてるってお父さまは仰ったわ

ジョバンニ

ぼくの父さんはそんな話してくれないや

カムパネルラ

サソリの火は西の国に伝わるお話だね。ジョバンニのお父さんは今西に向かっているから、きっと帰ってきたら話してくれるんじゃない

かなあ

女の子 あら、貴女のお父様は漁師なの？

ジョバンニ うん……

女の子 あら、どうして浮かない顔をなさるの

ジョバンニ ぼくの父さんが、密猟者なんじゃないかって、みんな言うんだ

女の子 みんなってだれ？

ジョバンニ 友達だよ、クラスの、みんな……

女の子 あら、意地悪をいう方が友達なの？ なんだかおかしいわね。私、先生に教わったのよ。友達っていうのはお互い信頼している人の事ではないの？

ジョバンニ それはそうだけど

女の子 私、ずっと友達が欲しかったのよ。でも意地悪を言う人だったら友達にはなりたくないわ

カムパネルラ ぼくもそうだよ。ねえ、ジョバンニ。きっとお父さんは帰ってくるよ。僕のお父さんが手紙を受け取ったんだ。きっと行き違いになっちゃっただけだよ。

女の子 貴方は自分のお父様を誇りに思っていないの？

ジョバンニ 思ってるよ、思ってるけど……

女の子 私も一緒よ！ 私のお父様も、守銭奴とか拝金主義者とか、酷いことを言われているみたいだけれど、いつも胸を張っていたわ。そういう意地悪を言うのは、お父様が羨ましいから言ってくるのよ。貴方のお父様の悪口を言う人も、きっとそう。だから子供である私は誇りに思っていないくちや。

ジョバンニ うん、うん。そうだね。

青年 ほら、そろそろリギル・ケンタウルスが見えてきますよ（指を指す）

女の子 ケンタウル、露をふらせ。ふらせ。ふらせ。

カムパネルラ お祈り？

女の子 ええ、みんなに幸せが降り注ぎますように、っていうお祈りよ

ジョバンニ ああ、そうだ、今夜はケンタウル祭だね

カムパネルラ ここはケンタウルの村だよ

ナレーシヨン まもなくサウザンクロス。サウザンクロス。

青年 さあ、おりの支度をしましょう。

ジヨバンニ

ねえ、僕たちと一緒に乗って行こう。僕たちどこまでだって行ける切符持ってるんだ。

女の子

だけど私達はもうここで降りなければいけないのよ。ここは天上へ行くところなんだから。

ジヨバンニ

天上へなんか行かなくなっちゃったいいじゃないか。ぼくたちここで天上よりも、もっといいところへ行かないといけないうって先生が言っていたよ。

女の子

だって天上はお母さまも行っちゃるし、それに神さまが仰っしゃるんだわ。

ジヨバンニ

そんな神さまは嘘の神さまだよ。

女の子

あなたの神さまこそ嘘の神さまよ。

ジヨバンニ

そうじゃないよ！

青年

では、あなたの神さまはどんな神さまですか。

ジヨバンニ

ぼく、ほんとうは神様なんてよく知りません。でも、知っていなくて、ほんとうのたった一人の神さまです。

青年

ほんとうの神さまはもちろんたった一人です。

ジヨバンニ

ああ、そうじゃなくって。神様なら、いつも幸せになるように導いてくれているんじゃないかと思うんです。だから、ここで降りなくても、きつとこの先にもつと、本当のさいわいがあると思うんです。

青年

神様が、いつも幸せになるように導いてくれるなら、私たちの乗っていた船が沈んだのも全て、思し召しだったのでしょうか。

ジヨバンニ

それは……

青年

あの黒い波にさらわれるまで、最後の一息を呑みこむまで、僕は信じていました。これも本当のさいわいに至るまでの、神の思し召しなのだと。

水の音

青年

ぼくが間違えたのかもしれませんが。それで、この子を道連れにしたのかもしれない。ほんとうは彼女だけでも助けることができたはずなんです。けれども、あの船の上で、沢山の子どもたちと、子どもたちに別れを告げる両親とを押しつけて救助列に割り込む勇気が、ぼくにはなかった。救助列を押しつけてこの子を助けられたなら、罪を被るのは僕だけでよかったはずなんです。ただ僕は、一人で罪を被る勇気がなかった。結局この子の手を引いて、ここまで導いてしまいました

た。もし、もし、この先に本当のさいわいがあるなら、僕の間違いも、彼女がここにいることも、何もかもみんな、思し召しなのでしょ
うか。

ジョバンニ

ぼくは、それでも、神様が僕たちの本当のさいわいを望んでくださつ
てると思うんです。そう、思いたいです。

青年

ええ、きっと、きっとそうだと信じていたいですね。だって、ここは
こんなにきれいだ。きっと世界中探しても、生きているうちは見つか
らないでしょう。わたくしはあなた方が、今に、そのほんとうの神さ
まの前に、わたくしたちとお会いになることを祈りますよ。

青年、女の子降りる支度をする。

ジョバンニ

ぼくたち、友達だろう

女の子

……私、貴方の友達になっていいの？

ジョバンニ

だから、一緒に行かない？

女の子

ううん、でも、行かなくちゃ。私、最後に友達が出来て、本当にうれ
しかった。ねえ、離れても友達でいてくれる？

ジョバンニ

もちろんだよ

女の子 ありがとう。貴方、とっても優しい人ね。またどこかで会うまで、覚

えていてね。

ジヨバンニ うん、さよなら。

カムパネルラ またどこかで。

赤い星が明滅する。フェードアウトしながら段々と車内が暗くなっていく。

ジヨバンニ カムパネルラ、また僕たち二人きりになったねえ、

カムパネルラ うん、そうだねえ。(地図を取り出す) ああ、今僕たちはこんなに乗

ってきたんだ。ね、ジヨバンニ。もう一度切符を見せてくれよ。

ジヨバンニ いいよ。僕はこれがなんだかわからないけども、どこまでもどこまで

も一緒に行こう。

カムパネルラ すごいや、この切符はほんとうにどこまでもいけるんだ

ジヨバンニ ねえ、カムパネルラ。覚えているかい。ぼくは学校から帰る途中たび

たび君のうちに寄っていた。きみのうちにはアルコールラムプで走る

汽車があったんだ。いつかアルコールがなくなったとき石油をつかつ

たら、かまがすっかり煤けたんだ。

カムパネルラ ああ、覚えているよ。あれはアルコールで走っていたんだね。あの頃

はよかったなあ。

ジヨバンニ

うん、あの頃は良かった。カムパネルラとも、みんなとも沢山話せたんだから。僕はもうあのサソリのようにほんとうにみんなのさいわいのためならば、僕のからだなんか百ぺん灼いてもかまわないよ

カムパネルラ

うん。僕だつてそうだ。

ジヨバンニ

けれどもほんとうのさいわいは一体何だろう

カムパネルラ

僕、まだわからないや

ジヨバンニ

ね、僕たちしつかりやろうねえ。

カムパネルラ

うん。あ、あそこ石炭袋だよ。そらの孔だよ

ジヨバンニ

きつとみんなのほんとうのさいわいをさがしに行く。どこまでもどこまでも僕たち一緒に進んで行こう。

カムパネルラ

ああきつと行くよ。あの野原はなんてきれいだろう。みんな集まってるねえ。あすこがほんとうの天上なんだ。あっあそこにいるのぼくの

お母さんだよ！

ジヨバンニ

母さん。

カムパネルラ

お母さんは、ぼくをゆるして下さるだろうか。ぼくはお母さんが、ほ

んとうにさいわいになるなら、どんなことでもする。けれども、いたいどんなことが、お母さんのいちばんの幸なんだろう

ジヨバンニ　ぼくわからない。母さん。何かを忘れている気がするんだ。

カムパネルラ　けれども、誰だって、ほんとうにいいことをしたら、いちばん幸なんだねえ。だから、お母さんは、ぼくをゆるして下さると思う。

ジヨバンニ、ポケットからボタンを取り出す。

ジヨバンニ　ああ、僕、母さんに牛乳を取りに行くんだった。

カムパネルラ　ジヨバンニ？

ジヨバンニ　カムパネルラ、僕は母さんを置いてきちゃった。川に近づいてはいけないって言われていたのに。母さんは今も、父さんが帰ってくるまで一人で待っているのかな。母さんは僕を許してくださるだろうか。

カムパネルラ　……

ジヨバンニ　ぼく、おかしいねえ。折角ここまで来たのに。これから先もずっとカムパネルラと二人でいられるのに。どうしても母さんや父さんや姉さんのことが頭に浮かぶよ。意気地なしだね。

カムパネルラ　ジヨバンニ、それはね。意気地なしじゃなくて、優しいっていうんだ

よ。

ジヨバンニ

え？

カムパネルラ

ぼくはね。船から落ちたザネリを見た時、溺れていくザネリを見た時、自業自得だと思ったんだ。いつもジヨバンニに悪口を言って、か
らかって、その罰が今なんだと思った。でも君は溺れていくザネリを
助けに川に飛び込んだ。

ジヨバンニ

あの時はただ体が動いて……

カムパネルラ

ジヨバンニはいつもそうだ。優しくて、いつも誰かのために動いてい
る。初めて会った時のことを覚えてる？ 僕、君に冷たい態度を取っ
たんだよ。きみに自慢するために大きな本を見せたり、汽車の模型を
見せたり、チェスでコテンパンにしたり。

ジヨバンニ

覚えてるよ。でも僕は嬉しかったんだ。頭が良くて、頑張り屋な君と
仲良くできるのがうれしかった。

カムパネルラ

ぼくもうれしかったよ。ジヨバンニは僕を「偉い大学士の子ども」じ
やなくて「ただのカムパネルラ」として見てくれていたんだから。初
めて会った時も、お母さんが亡くなった時も、ずっと手を繋いでくれ
ていた。こうして隣にいてくれた。

ジヨバンニ 君も、隣にいてくれる。

カムパネルラ 意気地なしは僕の方だ。ジヨバンニが辛い時、僕は隣にいなかった。いろんな人たちから、ジヨバンニとは仲良くするなって言われて、怖くなった。大勢の悪い声の中に飛び込んで、ジヨバンニの手を繋ぐ勇気がなかった。

ジヨバンニ カムパネルラは悪くないよ

カムパネルラ ジヨバンニだって、何一つ悪いことはしてない

ジヨバンニ、肩を落とす。

カムパネルラ ジヨバンニ、君は本当に優しい。ザネリのために川に飛び込んで、お父さんを信じ続けている。今だって、一人残したお母さんのことを考えて。でもジヨバンニの優しさには、君が勘定に入っていないんだ。

カムパネルラ、勢いよく立ち上がる

カムパネルラ ねえ、ジヨバンニ。ぼく、いまやつとほんとうのさいわいがわかったよ。

ジヨバンニ どこに行くの？

カムパネルラ きみは戻るんだよ。僕は一人で行く。

ジヨバンニ 行っちゃいやだよ。ずっと一緒に居よう。

カムパネルラ ずっと一緒にいたい。でも、僕はジヨバンニが生きていてくれる方がうれしい。

ジヨバンニ じゃあカムパネルラも一緒に戻ろうよ

カムパネルラ 何処までも行ける切符を持っているのは、ジヨバンニだけだ

ジヨバンニ カムパネルラともう会えないのは嫌だよ

カムパネルラ 会えるよ。また、君がここに来るときに。

ジヨバンニ 一人で待っているのはきつと寂しいよ

カムパネルラ 君がいつか戻ってくるとわかっているから、僕はもうあんな大きな闇の中だって怖くない。……ジヨバンニ、手を解いて。

星明かりが眩く明滅を繰り返す。ゆっくりと明滅が闇に染まっていく。

カムパネルラ さよなら、ジヨバンニ。今度会う時は、君が見つけたほんとうのさいわいを僕に教えてね。

カムパネルラ、退場

暗転

闇の中でたくさんの声が響く

「子どもが水へ落ちたぞ」「カムパネルラが川へ入った」「どうして、いつ」「ザネリが、ザネリが」「カムパネルラはどこに行った」「ああ、みんなきた」「まだみつからない」「ザネリは家へ連れられて行った」「水に落ちたぞ」「どうした」「どこにいった」「カムパネルラ、カムパネルラ」……声は繰り返す

薄明かりが差し込む

車掌 もう駄目です。落ちてから四十五分たちました

ジョバンニ、立ち上がる

ジョバンニ

ジョバンニ、水面を見つめる。退場。